

日本文学研究文献要覧
現代日本文学

2020~2024

梅澤亜由美・岩谷泰之 監修

序

『日本文学研究文献要覧 現代日本文学』も、この「2020～2024」版で第10冊めの刊行となる。第1冊から数えると47年が経過、対象とした年数としては60年分を収録したことになるという。

本書は10年をまとめた「1965～1974（昭和40年代）」版（1976～1977年）、「1975～1984（昭和50年代）」版（1994年）から始まった。そして、「1985～1989」版（1995年）からは5年ごとに1冊という区切りとなった。その後、「1990～1994」版（1999年）を経て、「1995～1999」版（2000年）では大幅な分類体系の見直しを行った。以後、刊行ごとに分類体系の見直しを行いつつ、「2000～2004」版（2005年）、「2005～2009」版（2010年）、「2010～2014」版（2015年）を刊行、「2015～2019」版（2020年）には電子版が加わり、全文検索が可能となった。そして、今回の「2020～2024」版（2025年）では、刊行当初から監修者を務めた勝又浩が交代し岩谷泰之が加わった。こうして見ていくと、本書もまた、時代の流れの中で少しずつ変容をとげて来たことが分かる。

また、この間、本書の役割も、変わってきたように思う。本書が刊行された当初、図書館には分類カードがあり、それらをめくって目的の文献を探していたであろう。そのような中、本書は文献調査のための有益なツールであった。その後、インターネットが普及し、瞬く間に文献調査はオンラインによるものが主流となっていった。このような時代的な変化を受け、本書は文献調査のためのものであると同時に、5年ごとに研究を定点観測するような役割を持ち始めている。版を重ねるごとに、新たな作家、新たな分類項目が加わり、逆に減少し、なくなっていくものもある。そして、書籍や論文、書評といった文献の書き手もまた、変化していく。本書を見ることで、5年ごとの日本現代文学の研究の有り様が見えてくる。こういった研究上の変容を測るにおいて、5年という間隔は適しているように思える。

今回の版に収録した基本的な数値データをあげると、収載対象とした雑誌は490（458）誌、図書は4,798（5,632）点、論文総数は21,998（23,124）件（括弧内は「2015～2019」版の数）となる。思えば、この前の「2015～2019」版を刊行した2020年は、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言の渦中であり、図書館に文献を調べに行くこともできない状態であった。このような状況から、今版にはコロナ禍による研究の停滞という懸念があり、とりわけこれらの点数が気になるころであった。図書、論文の点数が減っているものの、大幅な減少ではなかったことに安堵する。

新型コロナは2023年5月に5類感染症へと移行したが、在宅ワークやオンライン授業、研究の世界で言えば学会のオンライン開催や、対面とオンラインを併用するハイブリッド形式での開催など、オンライン化はますます進んでいる。書籍もまた電子への移行が進みつつある中、本書には本書だけの意義がある。形や監修は今後も変わっていくであろうが、本書が長く受け継がれて行くことを望みたい。

2025年5月

梅澤 亜由美

凡 例

1. 概 要

本書は、2020年から2024年までの5年間に日本国内で発表された、明治以降現代までの日本文学に関する研究文献21,998点（図書4,798点、雑誌記事17,200点）を収録した文献目録である。なお、これらの書誌とは別に、本書収録範囲外の研究文献の具体的な調査方法、および最近の研究用基本文献・参考図書について紹介した「現代日本文学研究案内」を巻頭に付している。

2. 収録点数

(1) 一般原則

- 1) 現代日本文学に関する史論、思潮論、作家・作品論などの研究論文を採録した。
- 2) 現代日本文学に関連して広く文学一般あるいは日本文学一般に言及した研究論文も採録した。
- 3) 純然たる随筆、随想、創作作品と見なせる著作は省いた。
- 4) 年譜、年表、書誌など一般に研究用資料と見なされている文献は採録した。
- 5) 作家、評論家、思想家の書簡、日記など作家研究の資料となる文献も採録した。

(2) 図 書

- 1) 専門書、研究書と見なせるものを採録した。
- 2) 学生・一般読者向けの学習参考書は省いた。
- 3) 小説、詩歌集などに掲載されている年譜や参考文献目録は採録した。

(3) 雑誌記事

- 1) 文学、日本文学、外国文学、言語、日本語、外国語に関する各種雑誌、大学紀要類、総合誌、文芸誌、一般誌、計約600誌を採録のための調査対象とした。
- 2) 調査にあたっては、著者表示を有する論文・記事を採録するものとし、無署名記事は原則省いた。但し、個々の論文・記事を包括する特集記事については、著者表示なしでも採録した。
- 3) 調査の結果、実際に文献を採録できた雑誌は490誌である。これらの雑誌名は巻末の「収録誌名一覧」に掲げた。

3. 文献の分類と排列

(1) 文献の分類

- 1) 採録した文献は、その内容によって「日本文学一般」「現代日本文学」「作家・作品論」に大別した。
- 2) 日本文学全般に関する文献、「文学教育」「海外の日本文学研究」など文学周辺に関するテーマを扱った文献は「日本文学一般」に分類した。
- 3) 明治以降の日本文学に関する文献は「現代日本文学」に分類し、さらにジャンルによって「エンターテインメント」「記録」「評論」「戯曲」「詩」「短歌」「俳句」

「川柳」「児童文学」に細分した。総論的な文献などジャンル分けの難しいものは細分しなかった。

- 4) 個々の作家、作品に関する文献は「作家・作品論」として作家名で分類、必要に応じてさらに作品名で細分した。
- 5) 内容による分類の他、文献の形態によって一般文献と〔書誌〕〔書評〕に大別し、一般文献はさらに〔図書〕と〔雑誌〕に区分した。年譜、年表、著作目録、参考文献一覧、名簿などは便宜上〔書誌〕に区分した。

(2) 分類見出し

- 1) 分類体系、分類見出しの詳細は目次に示した。
- 2) 作家名見出しには最も一般的な名前を使用した。作家名見出しの決定には以下の資料を利用した。

「増補改訂 新潮日本文学辞典」磯田光一ほか編 新潮社 1988

「日本近代文学大事典」日本近代文学館、小田切進編 講談社 1978

「データベースWho Plus」日外アソシエーツ

- 3) 見出し中の作品名は「 」で、雑誌名は『 』で示した。

(3) 文献の排列

- 1) 各区分における文献の排列は著者名の五十音順とした。
- 2) 排列に際しては濁音、半濁音は清音扱い、ヂ→シ、ヅ→スと見なし、拗促音は直音扱い、長音記号は無視した。
- 3) アルファベットで表示された著者名は五十音順の末尾にまとめて排列した。
- 4) 雑誌の特集記事など著者表示のない文献は最末尾にまとめて排列した。
- 5) 著者同一の文献、著者表示のない文献は刊行年月順に排列した。

4. 文献の記述

(1) 図 書

著者名／書名、副題、巻次、各巻書名／版表示／出版者／刊行年月／頁数／大きさ／定価／（叢書名）

例) 泉谷瞬 結婚の結節点—現代女性文学と中途的ジェンダー分析 和泉書院
2021.6 325p 20cm 3600円 (和泉選書 192)

(2) 図書の一部

著者名／標題／<書名、副題、巻次、各巻書名／図書著者名／出版者／刊行年月／大きさ／定価／（叢書名）>／該当頁または頁数

例) 辻秀平 川端康成「生きてゐる方に」論<戦争と文学の交渉 増田周子編著
関西大学東西学術研究所 2023.3 30cm 4700円(関西大学東西
学術研究所研究叢刊 68)> p127~143

(3) 雑誌記事

著者名／論題／：掲載雑誌名／巻号／〔刊行年月〕／該当頁または頁数

例) 木村陽子 三島由紀夫「白蟻の巣」論—〈構成〉と〈虫〉表象からの接近：
国語と国文学 100 (5) [2023.5] p47~63

(4) 雑誌特集記事の標題

特集名／：掲載誌名／巻号／〔刊行年月〕／該当頁または頁数

例) 特集・令和の童謡と少年詩：児童文芸：子どもの本をかく・よむ・たのしむ

66 (3)〔2020.6・7〕p5～33

5. 索引

(1) 事項名索引

- 1) それぞれの分類見出しに包括される人名やテーマ、雑誌名、賞名などを索引の見出しとした。
- 2) 文献の所在は、分類見出しとその掲載（開始）頁で示した。
- 3) 排列に際しては濁音、半濁音は清音扱い、ヂ→シ、ヅ→スと見なし、拗促音は直音扱い、長音記号は無視した。

(2) 作品名索引

- 1) 分類見出しとなった作品名、書名のほか、それぞれの分類見出しのもとで各文献が扱っている作品名、書名についても索引の見出しとした。
- 2) 文献の所在は、分類見出しとその掲載（開始）頁で示した。
- 3) 排列方法は事項名索引に準じた。

(3) 著者名索引

- 1) 各文献の著者、編者、訳者、対談者などを索引の見出しとした。
- 2) 文献の所在は掲載頁で示した。
- 3) 排列はまず姓の五十音順、次に名の五十音順とし、アルファベット表示の著者名は五十音順の末尾にまとめた。その他の排列方法は事項名索引に準じた。

6. 収録誌名一覧

- 1) 採録対象として調査した結果、紀要類などのうち、実際に文献を収録できた雑誌名、刊行者を掲載した。
- 2) 排列は雑誌名の五十音順とし、アルファベット表示のものは五十音順の末尾にまとめて掲載した。
- 3) 排列に際しては濁音、半濁音は清音扱い、ヂ→シ、ヅ→スと見なし、拗促音は直音扱い、長音記号は無視した。

現代日本文学研究案内

岩谷 泰之

近年、特に2020年以降、日本文学研究の環境は大きく変化しつつある。資料の電子化・デジタル化が急速に進み、コロナ禍を契機として多くの資料や論文がオンラインで公開された。物理的な距離に関係なく、必要な情報にいつでもアクセスできる基盤が整いつつある。しかしながら、紙媒体の文献や資料は依然として重要である。資料の正確性・信頼性の確認や、未だデジタル化されていない一次資料へのアクセスには、従来どおり紙の書籍・雑誌・資料が不可欠である。研究を行うにあたっては、デジタルと紙媒体の双方を活用する柔軟な姿勢が求められている。

まず文献収集の基盤として現在欠かせないのが、各種オンラインデータベースの活用である。代表的なものとして、国立情報学研究所が提供する横断検索プラットフォーム「CiNii Research」や、国文学研究資料館の「国文学・アーカイブズ学論文データベース」が挙げられる。前者では学術論文や大学紀要、博士論文などを一括して検索でき、後者は明治以降の国文学研究論文を網羅的に検索することが可能である（※同データベースは、かつて刊行されていた『国文学年鑑』の文献データを継承・更新している）。また、国立国会図書館の蔵書検索システム「国立国会図書館サーチ（NDLサーチ）」では、国会図書館だけでなく全国の公共図書館・大学図書館等の所蔵資料を横断検索でき、資料がどこに存在し入手可能かを迅速に把握することが可能である。日本出版インフラセンターの提供する出版書誌データベース「Books」も有用で、国内で発行された紙の書籍・電子書籍・雑誌の書誌情報を一括検索できる。

また資料のデジタルアーカイブ化も着実に進展している。国立国会図書館の「デジタルコレクション」では多数の書籍・雑誌資料がオンライン公開されており、「次世代デジタルライブラリー」では、OCR技術を活用した全文検索や画像類似検索といった高度な機能も提供されている。また、電子ジャーナルや電子書籍の普及に伴い、ジャパンナレッジをはじめとするオンライン文献プラットフォームの重要性も高まっている。ジャパンナレッジには多数の専門辞書・事典類が収録されているうえ、文学研究向けのコンテンツも充実しており、『明治文学全集』（全99巻、筑摩書房、1965～89年）の全文検索・閲覧や、大規模な文学事典『日本近代文学大事典』（全6巻、講談社、1977～78年）の収録・更新が行われている。電子環境下でこのように古典的資料

目次

凡例 (4)
現代日本文学研究案内 (7)
日本文学一般 3
辞典・書誌 6
雑誌総目次 6
学会・文学協会 10
学界時評・展望 12
文学館・図書館 12
文学史 15
文学教育 16
大学文学部 21
文学研究 22
海外の日本文学研究 24
解釈学 24
研究者評伝・追悼 25
コンピュータ・デジタル 25
AI・機械学習 26
言語・表現・文体 27
翻訳 29
テーマ別研究 32
古典と現代文学 34
諷刺・笑い 35
文学碑 36
詩歌 36
和歌 37
物語・随筆 38
講談・落語 39
現代日本文学 43
辞典・書誌 45
ブックガイド・文学案内 45
文芸時評・展望 48
同人誌評 51
文学賞 54
芥川賞 54
直木賞 55
新人賞 55
各種文学賞 57
出版 59
出版文化 61
古書 62
電子化・オンデマンド 69
小説論 69
作法 70

文学論争 70
差別問題(表現の自由) 71
検閲 72
テーマ別研究 72
異界 75
老いと文学 75
記憶 75
食と文学 75
セクシャリティ 75
貧困 76
病と文学 76
恋愛 77
政治と文学 78
天皇制 78
ナショナリズム 78
イデオロギー・労働問題 78
宗教と文学 79
キリスト教と文学 79
仏教と文学 80
メディアと文学 80
映像 81
サブカルチャー 82
絵画・図像 82
音楽 83
私小説 83
大衆文学 84
女性文学 84
農民文学 85
部落問題文学 85
戦争と文学 86
植民地文学・ポストコロニアリズム 88
在日朝鮮人文学 89
郷土文学 90
沖縄文学 93
日本語文学 94
異文化と文学 95
ケータイ文学・web小説 96
ヤングアダルト 96
文学研究論 96
方法論別研究 97
ジェンダー 97
精神分析・臨床論 99
テキスト論 99
都市論 99
ナラトロジー・語り 100

目次

比較文学 101
モダニズム 101
各種方法論 102
文学史 102
テーマ別通史 102
メディア史 103
文壇・文士 103
女性文学史 105
時代別研究 105
明治時代 105
翻訳文学 106
自然主義 106
言文一致 107
大正時代 107
白樺派 108
【青鞜】 108
昭和時代 108
昭和(戦前)時代 109
日本浪漫派 109
プロレタリア文学 109
昭和(戦後)時代 110
原爆文学 111
無頼派 111
戦後派 112
第三の新人 112
内向の世代 112
平成時代 112
震災文学 112
令和時代 113
エンターテインメント 115
文学賞 115
探偵小説・推理小説・ミステリ 115
SF小説 120
ライトノベル 123
怪奇小説・ホラー 125
幻想小説・ファンタジー 127
社会・経済小説 128
歴史小説・時代小説 128
官能小説・ボルノ 129
記録 130
文学賞 132
評伝・自伝 133
紀行 133
日記 133
書簡 134
随筆 134
批評 135
文学賞 137
批評家論 138

戯曲 139
文学賞 139
シナリオ 140
演劇評 140
詩 142
辞典・書誌 145
雑誌総目次 145
時評・展望 146
詩誌評 147
詩書・詩集評 149
文学賞 151
新人賞 152
作法 152
鑑賞・評釈 153
翻訳 154
詩論・詩論研究 155
朗読 156
言語・表現・修辞 156
定型詩 157
短詩 157
漢詩 157
詩と他分野 158
テーマ別研究 159
異文化と詩 160
戦争と詩 161
学生・児童詩 161
郷土文学 161
詩史 162
詩誌・結社 162
詩人論 163
女性詩人 163
明治時代 164
新体詩 164
昭和(戦前)時代 164
前衛詩・モダニズム詩 164
昭和(戦後)時代 164
【荒地】 165
平成時代 165
令和時代 166
短歌 167
辞典・書誌 170
雑誌総目次 170
時評・展望 171
歌誌評 175
作品評 175
歌書・歌集評 179
歌論・歌論研究 185
文学賞 187
新人賞 188
作法 189

〔書評〕

- 兼子盾夫 書評 奥野政元著『受難の文芸 近代日本の作家たちとキリスト教』：遠藤周作研究 (16) [2023.9] p26～36
- 加納孝代 書評 斉藤恵子著『聖書と女性たち』：比較文学 66 [2023] p175～178
- 小嶋洋輔 書評 長瀬拓磨著『戦後文学と聖書—日本の近現代作家におけるキリスト教の影響をめぐって』：遠藤周作研究 (16) [2023.9] p117～121

仏教と文学

〔図書〕

- 綾目広治 悟りと破戒と救済と—日本近代文学と仏教 アーツアンドクラフツ 2024.8 289p 20cm 3200円

〔雑誌〕

- 綾目広治 悟りと救済—真継伸彦の仏教文学：ノートルダム清心女子大学紀要. 外国語・外国文学編, 文化学編, 日本語・日本文学編 47(1) [2023] p1～17

メディアと文学

〔図書〕

- 黒田翔大 電話と文学—声のメディアの近代 七月社 2021.10 221p 22cm 4500円
- 永瀨朋枝 日本近代文学におけるメディアの勢力 <社会のなかの文学 広岡守穂編著 中央大学出版部 2021.1 22cm 4900円(中央大学政策文化総合研究所研究叢書 29)> p69～101
- 宮内淳子 虚構の文色/劇のありか—近代日本の小説と演劇をめぐって 翰林書房 2024.8 282p 22cm 3600円

〔雑誌〕

- 大野雅子 『ドライブ・マイ・カー』の映画と原作—「海を渡る風」と「北海道十二滝村」は映画に何をもたらしたか：群系 (49) [2023.前期] p121～137
- 大尾侑子 「直筆原稿」のメディア論—作家/プロレタリア的身体の痕跡を炙り出す：出版研究 (52) [2021] p47～70
- 金子明雄 新派と歌舞伎のあいだ—五代目中村芝翫の家庭小説劇をめぐって：大衆文化 (22) [2020.3] p42～57
- 川崎賢子, 華雪りら, 鈴木国男 プロジェクト文学藝術 講演会報告 宝塚歌劇における「いのち」の表現—柴田侑宏、正塚晴彦から上田久美子まで：文学藝術 (45) [2024.1] p85～119
- 木谷真紀子 三島由紀夫原作、映画とバレエの『春の雪』—ジャンルの特質が生む作品世界(特集・文化現象としてのアダプテーション)：日本文学 73(9) [2024.9] p13～23
- 小谷忠典 小説と脚本—言語化と可視化(特集・映画と文学)：武蔵野大学武蔵野文学館紀要 (11) [2020] p31～47
- 斎藤理生 《資料紹介》「中京新聞」の「原子小説」：阪大近代文学研究 22 [2024.3] p22
- 佐藤淳一 〈ゲーム〉と小説—八〇年代からの文学史的視座(2)：和洋国文研究 (58) [2023.3] p25～37
- 西川貴子 紙上映画という試み—懸賞映画小説「霊の審判」を読む：人文学 (209) [2022.3] p35～66
- 平野啓一郎, 石井裕也 対談 原作と映画の共同的ライバル関係(特集・共鳴する小説と映画)：文学界 78(12) [2024.12] p152～161
- 山崎努, 山下澄人 対談 演技と小説が交わる場所：新潮 121(3) [2024.3] p195～208
- 山根由美恵 舞台が原作を凌駕するとき—舞台「海辺のカフカ」における「戦争」表象：国文学攷 (246) [2020.6] p15～30
- 座談会(特集 新企画・誌面共同発表—座談会 越境する文学とメディア表現—ポップカルチャーへと拡張する文学の汎用性)：日本文学 71(1) [2022.1] p74～78

〔書誌〕

- 翻案 引用文献 <映画ノベライゼーションの世界—スクリーンから小説へ 波戸岡景太 小鳥遊書房 2020.2>
- 文学 引用文献 <例外状態の道化師(ジョーカー)—ポスト3・11文化論 笠井潔 南雲堂 2020.11> p375～379
- 日本文学 参考文献一覧 <電話と文学—声のメディアの近代 黒田翔大 七月社 2021.10> p200～213

〔書評〕

- 馬場伸彦 書評 黒田翔大著『電話と文学 声のメディアの近代』：名古屋大学国語国文学 (115) [2022.11] p122～116
- 広瀬正浩 書評 太田奈名子著『占領期ラジオ放送と「マイクの開放」—支配を生む声、人間を生む肉声』：日本近代文学 107 [2022.11] p145～148
- 安智史 書評 鳥羽耕史・山本直樹編『転形期のメディアロジー——九五〇年代日本の芸術とメディアの再編成』：昭和文学研究 81 [2020.9] p258～260
- 吉田司雄 書評 黒田翔大著『電話と文学—声のメディアの近代』：日本近代文学 107 [2022.11] p109～112

映像

〔図書〕

- 有馬弘純 オッティリーエの掌—批評集成 水声社 2023.6 348p 21cm 3500円
- 川崎賢子 キネマと文人—『カリガリ博士』で読む日本近代文学 国書刊行会 2024.11 452p 22cm 4000円
- 千街晶之 ミステリ映像の最前線—原作と映像の交叉光線 書肆侃侃房 2023.7 311p 19cm 2300円

〔雑誌〕

- 赤塚隆二 小津安二郎の『点と線』—鉄道を描いた両匠匠の同時代性：松本清張研究 (22) [2021] p124～139
- 新井卓 映画の方へ—震災後フィクション映画と二つのゴジラ、そして死者たち(特集・人類学/詩/映像)：現代詩手帖 64(9) [2021.9] p52～55
- 石井岳龍 石井岳龍監督インタビュー 映画『砂の女』は、もはや世界遺産です(生誕100年記念特集・わたしたちには安部公房が必要だ)：芸術新潮 75(3) [2024.3] p26～29
- 石井岳龍, 佐々木敦 爆裂内省メタアクション 映画『箱男』公開!!—対談 石井岳龍×佐々木敦：芸術新潮 75(9) [2024.9] p106～110
- 石子順 インタビュー 特集 映像時代の児童文学 宮崎駿氏に聞く アニメーションで描く世界—『魔女の宅急便』を中心に—過去のイチオシ記事(コラボ特集 feat.(フィーチャリング)『日本児童文学』)：児童文芸：子どもの本をかく・よむ・たのしむ 69(4) [2023・24.冬] p69～75
- 石田美紀 翻案者としての湯浅政明(総特集・湯浅政明—『マインド・ゲーム』『四畳半神話大系』から『映像研には手を出すな!』、そして『犬王』へ)：ユリイカ 54(8) (臨増) [2022.7] p57～63
- 大場健司 マイナー文学としての岩井俊二—映画『スワロウテイル』と東アジアの表象：跨境：日本語学研究 14 [2022] p177～190
- 加藤梅造 Report from Loft：What's Going On? (Vol.54) 三島由紀夫vs東大全共闘 50年目の真実 豊島圭介監督・刀根鉄太プロデューサー：創 50(4) [2020.4] p108～111
- 金澤誠 「箱男」撮影現場ルポ—石井岳龍監督 27年前の幻の企画、ついに実現：キネマ旬報 (1946) [2024.8] p94～98
- 佐藤颯 断層・媒質・混成—『日本沈没2020』を読みなおす(総特集・湯浅政明—『マインド・ゲーム』『四畳半神話大系』から『映像研には手を出すな!』、そして『犬王』へ)：ユリイカ 54(8) (臨増) [2022.7] p241～248
- 島村健司 横光利一「日輪」映画化の背景と展望—字幕から発話表現へ：日本語文化研究 26号 [2021.9] p44～69
- 竹内未生 幻想を賦活(アニメート)する—アニメ映画『夜は短し歩けよ乙女』における翻案(アダプテーション)の分析(総特集・湯浅政明—『マインド・ゲーム』『四畳半神話大系』から『映像研には手を出すな!』、そして『犬王』へ)：ユリイカ 54(8) (臨増) [2022.7] p173～183
- 谷美映子 夢野久作『ドグラ・マグラ』と映画『殴られる彼奴』の受容に関する一考察—「博士」と「道化」を焦点として—：東洋大学大学院紀要(文学研究科) 59 [2023.3] p1～18
- 中鉢裕幸, 加藤正人 歴史的小説をどう映像化したのか 部落差別を描いた映画『破戒』が現代に問いかけるもの：創 52(8) [2022.8] p50～54
- 陳琪榮 是枝裕和の映画小説の特徴及び中国における受容状況について：四天王寺大学紀要 (73) [2023年度] p191～209
- 土屋忍 「映画と文学」とは何か—蓮實重彦・中村三春・岩井俊二(特集・映画と文学)：武蔵野大学武蔵野文学館紀要 (11) [2020] p49～60
- 友田義行 映画と文学の横断—アダプテーションとしての『劇場版ごん』：昭和文学研究 87 [2023.9] p211～214
- 中村三春 新・〈原作〉の記号学—伊藤俊也監督『風の又三郎 ガラスのマント』に触れて(特集・映画と文学)：武蔵野大学武蔵野文学館紀要 (11) [2020] p3～30
- 沼野充義 村上—チェーフーフ—濱口の三つ巴—『ドライブ・マイ・カー』の勝利：新潮 118(10) [2021.10] p214～218
- 根本美作子 イメージVSヴィジョン/三島対ブルースト(特集 映像・画像)：文芸研究：明治大学文学部紀要 (141) [2020] p174～163
- 原田ひ香, 佐藤満春 対談 映像のない「言葉の力」に魅せられて。：潮 (731) [2020.1] p132～139
- 松浦寿輝, 沼野充義, 田中純 徹底討議 二〇世紀の思想・文学・芸術(第7回)「映像」の運命：群像 76(4) [2021.4] p412～451
- 苗鳳科 八〇年代の中国における日本社会派推理小説の受容について—『砂の器』と『人間の証明』の映画版から見えるもの：日本文学 69(9) [2020.9] p13～24
- 山内由紀人 映画『憂国』の方法(特集・三島由紀夫の方法)：三島由紀夫研究 (22) [2022.4] p42～50
- 山路敦史 中村三春著『〈原作〉の記号学—日本文芸の映画的次元』の射程—『〈原作〉の記号学』を読む会の活動報告を踏まえて(特集・映画と文学)：武蔵野大学武蔵野文学館紀要 (11) [2020] p61～68
- 山根由美恵 映画「風の歌を聴け」論—「鼠」/小指の女/新宿・渋谷：近代文学試論 (61) [2023.12] p61～72
- 湯浅篤志 甲賀三郎原作、映画『姿なき怪盗』をめぐるルパン映画(特集・甲賀三郎)：『新青年』趣味：『新青年』研究会機関誌 (20) [2020.5] p55～67

p175～178

松田行正 野ばらさんに就いて(特集・嶽本野ばら―『それいぬ』『ミシン』『ロリキタ。』『下妻物語』『ハビネス』から『純潔』へ、そして……永遠の乙女のカリスマ): ユリイカ 56(6) [2024.5] p70～74

松永天馬 少女の気持ちはわからない(特集・嶽本野ばら―『それいぬ』『ミシン』『ロリキタ。』『下妻物語』『ハビネス』から『純潔』へ、そして……永遠の乙女のカリスマ): ユリイカ 56(6) [2024.5] p144～147

みあ 彼/女たちの幸福論(特集・嶽本野ばら―『それいぬ』『ミシン』『ロリキタ。』『下妻物語』『ハビネス』から『純潔』へ、そして……永遠の乙女のカリスマ): ユリイカ 56(6) [2024.5] p207～209

茂木謙之介 死にゆく童貞天皇と幽霊の語り―嶽本野ばら「純愛」/『純潔』をめぐって(特集・嶽本野ばら―『それいぬ』『ミシン』『ロリキタ。』『下妻物語』『ハビネス』から『純潔』へ、そして……永遠の乙女のカリスマ): ユリイカ 56(6) [2024.5] p98～105

山田萌果 嶽本野ばらの描く「乙女」の主体性―澁澤龍彦「少女コレクション序説」との関連性をめぐって(特集・嶽本野ばら―『それいぬ』『ミシン』『ロリキタ。』『下妻物語』『ハビネス』から『純潔』へ、そして……永遠の乙女のカリスマ): ユリイカ 56(6) [2024.5] p165～174

横田祐美子 幸福は永遠に乙女だけのものだ(特集・嶽本野ばら―『それいぬ』『ミシン』『ロリキタ。』『下妻物語』『ハビネス』から『純潔』へ、そして……永遠の乙女のカリスマ): ユリイカ 56(6) [2024.5] p128～134

〔書誌〕
 嶽本野ばら 嶽本野ばら自編年譜(特集・嶽本野ばら―『それいぬ』『ミシン』『ロリキタ。』『下妻物語』『ハビネス』から『純潔』へ、そして……永遠の乙女のカリスマ): ユリイカ 56(6) [2024.5] p239～248

竹山 広
 〔雑誌〕
 小島ゆかり 平成に逝きし歌びとたち(15)竹山広: 歌壇 35(3) [2021.3] p7,104～111

太宰 治
 〔図書〕
 安藤宏, 斎藤理生編著, 小澤純, 吉岡真緒著 太宰治単行本にたどる検閲の影 秀明大学出版会 2020.10 154p 22cm 2500円

安藤宏 太宰治論 東京大学出版会 2021.12 1184,18p 22cm 12000円

市原善衛 太宰治と船橋 [市原善衛] 2021.11 55p 19cm 非売品

北川透 北川透現代詩論集成 4 三島由紀夫と太宰治の戦場 思潮社 2021.3 554p 20cm 5000円

齋藤孝 太宰を読んだ人が迷い込む場所 PHP研究所 2020.3 236p 18cm 940円(PHP新書 1221)

相馬明文 太宰治の文学―その戦略と変容 能登印刷出版部(発売) 2020.7 281p 22cm 2500円

千葉一幹 失格でもいいじゃないの―太宰治の罪と愛 講談社 2023.2 250p 19cm 1700円(講談社選書メチエ 779)

富永國比古 医師が語る文豪・太宰治の(注意欠陥・多動性障害)ADHD説 22世紀アート 2020.3 202p 19cm

長原しのぶ 太宰治の(生) 鼎書房 2023.3 259,6p 22cm 5500円

南田慎一 文壇パー風紋青春記―何歳からでも読める太宰治 未知谷 2023.2 281p 20cm 2300円

西脇巽 太宰治自殺考 北の街社 2021.1 248p 19cm 1600円

花輪兵庫 今蘇る太宰治―貫種流離譚=やつしの人生: 知られざる甲府居住時代の軌跡 新装改訂増補版 ココデ出版 2022.4 113p, [1] 枚(折り込み) 19cm 2000円

〔雑誌〕
 安藤宏, 川島幸希 開館30周年記念特設展「太宰治 生誕110年―作家をめぐる物語」関連対談 太宰治・著書と資料をめぐって(令和元年度企画展・特設展をめぐって―開館30周年記念特設展「太宰治 生誕110年―作家をめぐる物語」): 資料と研究 25 [2020.3] p41～75

安藤宏 太宰治という迷宮(ラビリンス)―『太宰治論』を執筆して: UP 51(2) [2022.2] p1～5

安藤宏 近代の宿業を生きた作家―岩波文庫、太宰治小説集の刊行に寄せて: 図書 (907) [2024.7] p2～5

小澤純 那珂太郎と太宰治の一九四三年九月―「三田循司資料」から発見された那珂太郎の戦中日記(特集・那珂太郎生誕百年): 現代詩手帖 65(9) [2022.9] p30～37

小田桐ジェイク 無題序文における自己宣伝の機能―太宰治の作品集『思ひ出』を中心に: 阪大近代文学研究 19 [2021.3] p19

佐藤洋二郎 「私小説」を歩く(第23回)太宰治「死にたい病」はどこからくるのか: 季刊文科 (88) [2022.夏季] p287～292

須藤紀子 全国の図書館で太宰治資料展(特集・トピックスで追う図書館とその周辺): 図書館雑誌 114(1) [2020.1] p24～25

高橋日向子 太宰治の(戦後)と「ナンセンス」の再構築―チャップリンを補助線にして: 近代文学試論 (59) [2021.12] p37～46

田坂憲二 吉井勇の読書生活(5) 太宰治を読む(上): 日本古書通信 88(5) [2023.5] p34～35

田坂憲二 吉井勇の読書生活(6) 太宰治を読む(中): 日本古書通信 88(6) [2023.6] p14～15

田坂憲二 吉井勇の読書生活(7) 太宰治を読む(下): 日本古書通信 88(7) [2023.7] p12～13

千葉一幹 本の名刺 失格でもいいじゃないの―太宰治の罪と愛 千葉一幹: 群像 78(5) [2023.5] p203～205

長野秀樹 太宰治作品における「語り手」の問題―中期作品を中心に(高山倫明教授 辛島正雄教授退任記念号): 語文研究 (130・131) [2021.6] p342～353

中野佑菜 太宰治作品における(弱い男)のテキスト戦略―女語りに焦点化して: 国文 (134) [2021.7] p49～63

野口尚志 太宰治: 昭和文学研究 86 [2023.3] p175～178

矢島裕紀彦取材・文 宮沢賢治 岩手山 早池峰山/太宰治 岩木山(大特集・この夏は歴史と文化が香る名山へ 神々の山を歩く―第2部 文士が愛した山): サライ 33(6) [2021.6] p44～45

横手一彦 画題「狐とれもん」―小館善四郎・太宰治・梶井基次郎(創刊40号特別号): 郷土作家研究 (40) [2022.9] p53～71

御蔵稲荷神社 千葉県/高山稲荷神社 青森県―太宰治 近所の稲荷神社で初作品集の口絵を撮影。古びた狐の石像が、社殿の奥に今も残る(招福大特集・幸せを祈り、いのちに感謝する「初詣」の流儀―第2部 夏目漱石 森鷗外 樋口一葉 谷崎潤一郎 川端康成 坂口安吾 太宰治 池波正太郎 文士が詣でた神社12): サライ 32(1) [2020.1] p60～61

〔書誌〕
 奥村七海 資料 太宰治全作品聖書引用一覧: フェリス女学院大学日文学部紀要 (26) [2022.7] p36～91

文章 参考文献 <太宰治の文学―その戦略と変容 相馬明文 能登印刷出版部 2020.7> p43～44

太宰治 略年譜 <わらう! 太宰治―第113回企画展 群馬県立土屋文明記念文学館 2021.10> p20～21

太宰治 参考文献 <失格でもいいじゃないの―太宰治の罪と愛 千葉一幹 講談社 2023.2> p246～249

太宰治 参考文献 <文壇パー風紋青春記―何歳からでも読める太宰治 南田慎一 未知谷 2023.2> p280～281

〔書評〕
 安西晋二 書評 中村三春著『物語主義―太宰治・森敦・村上春樹』: 日本近代文学 111 [2024.11] p227～230

高橋秀太郎 書評 千葉一幹著『失格でもいいじゃないの 太宰治の罪と愛』: 比較文学 66 [2023] p119～123

滝口明祥 書評 関谷一郎著『太宰・安吾に檀・三島 シドクⅡ』: 昭和文学研究 83 [2021.9] p223～225

時野谷ゆり 書評 安藤宏・斎藤理生編『太宰治 単行本にたどる検閲の影』: 昭和文学研究 84 [2022.3] p311～313

三谷憲正 書評 内海紀子・小澤純・平浩一編『太宰治と戦争』: 昭和文学研究 81 [2020.9] p241～243

比較・影響
 〔雑誌〕
 伊藤比呂美, 町田康, 辻本力 対談「全力の俺」の魅力―中原中也と太宰治: 文學界 74(4) [2020.4] p176～198

勝又浩 最後の行き違い―井伏鱒二と太宰治(特集・さまざまな八月十五日): 季刊文科 (85) [2021.夏季] p95～100

史蕊 中国における太宰治文学紹介の萌芽―華文雑誌『新輪』および白雲記「皮膚病」に着目して: 近代文学試論 (61) [2023.12] p25～36

杉本紀子 西鶴と太宰―『武道伝來記』巻二の四「命とらるる人魚の海」を再評価する(石井正己教授 黒石陽子教授 大井田義彰教授 退職記念号―黒石陽子教授退職記念論文): 学芸国語国文学 (55) [2023.3] p222～233

滝口明祥 恵まれていることへの不安―西加奈子と太宰治(特集・西加奈子): ユリイカ 52(14) [2020.11] p99～104

中沢けい 太宰治と郁達夫(季刊文科80号記念特集・国境を越えた私小説): 季刊文科 (80) [2020.早春] p61～64

長濱拓磨 シンポジウム 大正から昭和期の作家活動と共にプロテスタント信仰と実存的に関わる諸問題―太宰治・椎名麟三を中心として: キリスト教文学研究 (41) [2024] p43～54

宮本祐規子 西鶴と太宰治―『新釈諸国噺』「女賊」試論: 国文白百合 (54) [2023.3] p32～37

山口俊雄 転生する太宰治・アダプトされる太宰治―太宰治ワークショップ覚え書き: 日本女子大学大学院文学研究科紀要 (29) [2022] p1～17

〔書評〕
 柴田勝二 書評 関谷一郎著『太宰・安吾に檀・三島―シドクⅡ』: 日本近代文学 103 [2020.11] p126～129

小説
 〔図書〕
 飯田祐子 ナラトロジー どのように語られているかという問い―太宰治「饗応夫人」 <文学研究の扉をひらく 石川巧, 飯田祐子, 小平麻衣子, 金子明雄, 日比嘉高編 ひつじ書房 2023.2 21cm 2200円>

事項名索引

【あ】

- 愛敬 浩一 →あ行の作家 266
逢坂 冬馬 →あ行の作家 266
逢崎 遊 →あ行の作家 266
相沢 沙呼 →あ行の作家 266
【愛生—戦前編 復刻版】 →雑誌総目次(日本文学一般) 6
会田 千衣子 →あ行の作家 266
あいら →あ行の作家 266
アイロニー →言語・表現・修辞(短歌) 193
饗庭 篁村 →あ行の作家 266
【青い海】 →雑誌総目次(日本文学一般) 6
青池 亘 →あ行の作家 266
青木 和雄 →あ行の作家 266
青木 健 →あ行の作家 266
青木 さやか →あ行の作家 266
青木 淳悟 →あ行の作家 266
青木 新門 →あ行の作家 266
青木 祐子 →あ行の作家 266
青木 陽子 →あ行の作家 266
青崎 有吾 →あ行の作家 266
青島 頸 →あ行の作家 266
青波 杏 →あ行の作家 266
青羽 悠 →あ行の作家 266
青森県郷土作家研究会 →学会・文学協会 10
青山 光二 →あ行の作家 266
青山 純三 →あ行の作家 266
【青山学院女子短期大学紀要】 →雑誌総目次(日本文学一般) 6
【赤い鳥】 →【赤い鳥】 265
赤江 瀑 →あ行の作家 266
赤尾 兜子 →あ行の作家 266
赤神 諒 →あ行の作家 266
赤川 次郎 →あ行の作家 266
赤城 さかえ →あ行の作家 266
赤坂 真理 →あ行の作家 266
赤染 晶子 →あ行の作家 266
赤羽 末吉 →あ行の作家 266
赤松 りかこ →あ行の作家 266
秋尾 敏 →あ行の作家 266
秋田 實 →あ行の作家 266
秋元 貞雄 →あ行の作家 266
秋元 千恵子 →あ行の作家 266
秋元 有子 →あ行の作家 266
秋谷 豊 →あ行の作家 266
あきやま ただし →あ行の作家 266
阿久 悠 →あ行の作家 266
芥川賞 →芥川賞 54
暁方 ミセイ →あ行の作家 266
朱野 婦子 →あ行の作家 266
朝井 まかて →あ行の作家 266
浅尾 大輔 →あ行の作家 266
浅尾 忠男 →あ行の作家 266
あさお よう →あ行の作家 266
浅川 芳直 →あ行の作家 266
朝霧文学会 →学会・文学協会 10
浅倉 秋成 →あ行の作家 266
阿佐田 哲也 →あ行の作家 266
あさだ りん →あ行の作家 266
浅野 晃 →あ行の作家 266
あさの ますみ →あ行の作家 266
【アサヒカイカン コドモの本】 →児童芸誌 264
朝比奈 秋 →あ行の作家 266
朝比奈 あすか →あ行の作家 266
朝吹 真理子 →あ行の作家 266
麻布競馬場 →あ行の作家 266
【アジア・アフリカ言語文化研究】 →雑誌総目次(日本文学一般) 6
芦川 和樹 →あ行の作家 266
芦沢 央 →あ行の作家 266
芦田 高子 →あ行の作家 266
安壇 美緒 →あ行の作家 266
阿津川 辰海 →あ行の作家 266
accototoふくだとしお+あきこ →あ行の作家 266
アニメ →映像 81
阿部 静枝 →あ行の作家 266
阿部 青鞋 →あ行の作家 266
阿部 智里 →あ行の作家 266
阿部 徳蔵 →あ行の作家 266
あべ はじめ →あ行の作家 266
あべ 弘士 →あ行の作家 266
厄子 駿兵衛 →あ行の作家 266
天野 英 →あ行の作家 266
阿万 鯨人 →あ行の作家 266
網倉 朔太郎 →あ行の作家 266
雨宮 雅子 →あ行の作家 266
彩瀬 まる →あ行の作家 266
新井 紀一 →あ行の作家 266
新井 豊美 →あ行の作家 266
新井 洋行 →あ行の作家 266
新井 見枝香 →あ行の作家 266
荒井 良二 →あ行の作家 266
新垣 美登子 →あ行の作家 266
荒川 洋治 →あ行の作家 266
新 胡桃 →あ行の作家 266
荒畑 寒村 →あ行の作家 266
荒巻 義雄 →あ行の作家 266
荒俣 宏 →あ行の作家 266
【アララギ】 →【アララギ】 202
【アラレ】 →俳誌 235
有田 奈央 →あ行の作家 266
【荒地】 →【荒地】 165
粟津 則雄 →あ行の作家 266
安西 冬衛 →あ行の作家 266
安藤 忠雄 →あ行の作家 266
安堂 ホセ →あ行の作家 266
安東 みきえ →あ行の作家 266
アンナ・ツイマ →た行の作家 464

作品名索引

【あ】

- 臆無情 →黒岩涙香 411
 アイ・アム・アリス →別役実 582
 愛犬ベネディクト →小川洋子 356
 愛国短歌 →茅野雅子 502
 愛憐詩篇ノート →萩原朔太郎 392
 愛と婚姻 →その他の作品(泉鏡花) 316
 アイヌ神謡集 →知里幸恵 503
 愛の濁き →小説(三島由紀夫) 613
 愛の疾走 →三島由紀夫 608
 愛憐詩篇ノート →萩原朔太郎 558
 あ・うん →向田邦子 634
 青い馬 →比較・影響(芥川龍之介) 286
 青い海黒い海 →小説(川端康成) 392
 青い山脈 →石坂洋次郎 311
 青い壺 →有吉佐和子 300
 青鬼の禪を洗う女 →その他の作品(坂口安吾) 437
 蒼き狼 →その他の作品(井上靖) 324
 黴い紫陽花 →円地文子 336
 蒼ざめた馬を見よ →五木寛之 317
 青白き夢 →素木しづ 458
 青の時代 →小説(三島由紀夫) 613
 青葉繁れる →井上ひさし 321
 青りんご →向田邦子 634
 赤い入江 →辺見庸 583
 赤いくじ →松本清張 602
 赤い靴のタンゴ →西条八十 433
 赤い部屋 →江戸川乱歩 333
 赤い繭 →「壁—S—カルマ氏の犯罪」 295
 赤いりんごの唄がきこえ →葉山修平 565
 赤い蠟燭と人魚 →小川未明 355
 赤ゲットの佛蘭西旅行 →遠藤周作 336
 アカシヤの大連 →清岡卓行 404
 赤頭巾ちゃん →滝澤龍彦 452
 暁の寺 →「豊饒の海」 616
 赤とんぼ →三木露風 608
 灯をめぐる虫 →小説(伊藤整) 319
 [あかるいひるま] →詩歌(宮沢賢治) 627
 秋 →「秋」 289
 空罐 →林京子 563
 秋の雨 →「掌の小説」 394
 秋の夜長物語 →稲垣足穂 320
 秋深き →織田作之助 361
 芥川龍之介君のこと →比較・影響(島崎藤村) 454
 アグネス論争 →林真理子 565
 悪筆草子 →塚本邦雄 503
 悪魔の手毬唄 →横溝正史 672
 悪夢 →江戸川乱歩 333
 あげくれ →早船ちよ 565
 アコウクロウ幻視行 →崎山多美 439
 あこがれ
 →石川啄木 307
 →瀬戸内寂庵 461
 朝顔 →小説・随筆(室生犀星) 644
 権 →古井由吉 580
 朝顔金太捕物帳 →横溝正史 672
 朝狩 →岡井隆 352
 浅草紅団 →小説(川端康成) 392
 浅草の唄 →サトウハチロー 443
 朝倉 →小説(三島由紀夫) 613
 浅茅生 →その他の作品(泉鏡花) 316
 朝、上海に立ちつくす—小説東亜同文書院 →大城立裕 349
 朝の歌
 →中原中也 530
 →若山牧水 689
 朝のリレー →谷川俊太郎 489
 旭川。 →詩歌(宮沢賢治) 627
 欺かざるの記 →国木田独步 408
 海豹と雲 →詩(北原白秋) 400
 足跡 →小説(石川啄木) 310
 足跡 →徳田秋声 511
 蘆刈 →「蘆刈」 493
 あしたのことば →森絵都 646
 荻舟、飛んだ →津島佑子 505
 アザンコート →内田百閒 329
 梓神子 →坪内逍遙 507
 アスベストス →佐伯一麦 435
 安宅家の人々 →吉屋信子 685
 暖かい夢 →小品・随筆・紀行(夏目漱石) 542
 熱海糸川柳橋 →野口富士男 547
 熱海の春 →その他の作品(泉鏡花) 316
 アトラクシア →金原ひとみ 383
 新しい詩とその作り方 →詩(室生犀星) 643
 新しい天体 →開高健 375
 新しい恋愛 →朝井リョウ 291
 新しい長城 →高橋和巳 474
 新しい人よ眼ざめよ →その他の作品(大江健三郎) 346
 新しい村 →新しき村 635
 あちらにいる鬼 →井上荒野 321
 アデンまで →「アデンまで」 339
 あとがきはまだ →俵万智 501
 アド・バルーン →織田作之助 361
 アトミック・エイジの守護神 →その他の作品(大江健三郎) 346
 あとみよそわか →幸田文 415
 あなた →大城立裕 349
 あなたにオススメの →本谷有希子 645
 穴の中の護符 →松本清張 602
 あにいもうと →小説・随筆(室生犀星) 644
 アニマ →佐佐木幸綱 441
 あの子とQ →万城目学 597
 あの胸が岬のように遠かった →永田和宏 529
 網走まで →その他の作品(志賀直哉) 448
 あひあひ傘 →その他の作品(泉鏡花) 316
 あひる →今村夏子 326
 アフターダーク →「アフターダーク」 639
 売油郎独占花魁 →佐藤春夫 443

著者名索引

【あ】

愛川 今生	507	青木 由弥子	318 357	阿川 佐和子	104 544	浅田 彰	269 503
相川 美恵子	10 479 515	青木 陽子	43 48 70	秋枝 美保	296 325 622 625 627	浅田 次郎	291
相川 良彦	12 540	青木 良和	332	秋尾 敏	13 212 233 234 396	浅田 孝紀	105
藍木 大地	257	青木 龍	259	秋草 俊一郎	3 4 25 26 39	浅田 政志	364 592
愛敬 浩一	266 298 350	青木 怜依奈	597	秋田 維吹	484	あさだ りん	269
相子 智恵	209 210 227	青崎 有吾	43 115 117 266 268	秋田 喜美	132	安里 琉太	207 208
愛甲 晴美	426	青島 顕	269	阿木津 英	37 171 190 196 202	アサトーミナミ	212 228 230 231 488
逢坂 冬馬	87 115	青田 麻未	415	青波 杏	203 352 363 666	浅野 いにお	376
逢崎 遊	268 277 376 515 517	青戸 しの	115	青野 曆	608	浅野 麗	366
相沢 和恵	278	青波 杏	55 269	青野 慶久	333	アサノ タカオ	466
相沢 史郎	268	青野 悠	43 269	秋永 正人	609	浅野 忠信	296
相澤 史郎	687	青柳 恵介	43 269	秋野 梓	96	浅野 正美	609
會津八一記念館	283 464	青柳 菜摘	179 195	秋野 まつり	96	あさの ますみ	269
相田 奈緒	167 193 412 653	青柳 美帆子	46 142 159 489 660	秋葉 四郎	234 434	浅野 洋	568
会田 弘継	492	青山 明弘	75 76 120	秋葉 吉彦	346 609	浅羽 通明	46 585
相原 勝	632	青山 新	446	秋元 いずみ	420 641	あさば みゆき	241
相原 優子	313	青山 雨子	120	秋元 孝文	545	朝日 仁美	251 429
あいら	268	青山 貴子	514	秋本 博夫	551	朝日新聞出版	218
阿尾 安泰	27	青山 拓央	106	秋元 裕子	479	朝比奈 秋	269
蒼井 優	688	青山 友子	94	秋山 完	122	朝吹 真理子	44 77 269
葵生川 玲	411	青山 七恵	55 494 648	秋山 佐和子	13 167 353 363 608	280 328 341 343 494	
青池 憲司	510	青山 英正	36 37 678	秋山 志織	641	545 546 580 642 693	
青池 亘	231	青山 仁	440	秋山 駿	607	朝吹 亮二	146 161
青木 淳	366	青山 真紀	14	秋山 稔	315 316	353 360 546 559 681	
青木 杏樹	551	青山 誠	262	秋山 基夫	156	浅間 哲平	21
青木 理	59 130 131 133 566	青山 南	269	秋吉 收	29	朝宮 連河	75 126 269
青木 杏佳	445	青山 優太郎	349	秋吉 大輔	510	272 367 368 370 404	
青木 敬	159	青山学院大学文学部日本	3 101	秋好 亮平	116	460 466 472 601 659	
青木 宏一郎	646	文学科	90	秋龍之介	103	浅利 尚民	21
青木 耕平	341 640	赤井 克己	90	明尾 香澄	251	浅利 文子	635
青木 言葉	392	赤井 紀美	354 395 410 415	暁方 ミセイ	150 152 165	浅利 誠	385
青木 紗	314 316 358	赤井 益久	527	揚妻 祐樹	27 100 315 359	芦川 和樹	269
青木 淳悟	346	赤石 忍	368	朱野 陽子	115 269	芦川 貴之	106 366 408 516 591
青木 資二	589	赤磐市教育委員会熊山分	528 529	明保能 宏熙	516 591	紫陽花法師	189
青木 毅	27 535	室	331	阿古 智子	137	葦沢 かもめ	26
青木 保	462	赤江 達也	266	阿古 真理	426	葦沢 央	115
青木 千恵	519	赤江 瀑	266	浅井 航洋	93 515	芦野 陽子	298
青木 鐵夫	577	赤江 諒	269 276	浅井 民子	210 212 216	葦原 かも	246
青木 奈緒	415	赤木 昭夫	165 535	朝井 まかて	104 269 276 647 648	芦辺 拓	333 396 415
青木 はるみ	362	赤城 稔	40	浅井 美峰	10 195	安島 数太	368
青木 風香	149	赤位 昌併	269	浅井 陽子	231 234	アステイオン編集委員会	655
青木 文美	686	赤坂 憲雄	32 75 102 159	朝井 リョウ	54 291 466 641 680	東 順子	82
青木 亮人	16 90 206 212 219 227	赤坂 真理	322 435 621 622 662	浅尾 大輔	420	東 聖子	213
青木 正美	236 237 459 476 585	明石 吟平	269	あさお よう	269	東 典幸	527 559 562
青木 美保	62 313 462 497 498	縣 丈弘	541	朝岡 英輔	368	東 秀紀	603
青木 美保	515 545 603 679	あがた 森魚	481	浅岡 邦雄	62	東 浩紀	135 137 138
青木 みつお	149 159	赤田 康和	349	浅岡 靖央	256 589	東 望歩	32
青木 (秋枝) 美保	325 626	赤塚 五行	231	浅岡 泰子	375	安住 紀宏	404 681 688
青木 大和	16	赤塚 隆二	81 602 603	浅岡 瑠衣	361	あずみ虫	269
青木 祐子	269	曉 なつめ	266	浅川 芳直	207 227 476	麻生 裕貴	632
青木 優佳	608	我妻 俊樹	189 195	浅木 原 忍	116 266	安宅 りさ子	550
		赤野 工作	268	朝霧 カフカ	103	足立 元	59
		赤間 亜生	322	浅倉 秋成	117	足立 賢治	234
		赤松 優香	287	浅倉 久志	120	足立 幸子	251
		赤松 りかこ	269	浅子 逸男	354 436 437	足立 歩久	231
				朝治 武	130	安達 茉莉子	415
				朝妻 力	220 234	安達原 達晴	437 452 461
						安壇 美緒	269
						阿知良 光治	201
						阿知波 正貴	295

収録誌名一覧

【あ】

愛知学院大学教養部紀要(愛知学院大学教養教育研究会)
 愛知学院大学人間文化研究所報(愛知学院大学人間文化研究所)
 愛知学院大学文学部紀要(愛知学院大学文学会)
 愛知教育大学大学院国語研究(愛知教育大学大学院国語教育専攻)
 愛知県立大学説林(愛知県立大学国文学会)
 あいち国文(愛知県立大学文学部国文学科あいち国文の会)
 愛知淑徳大学国語国文(愛知淑徳大学)
 愛知淑徳大学大学院文化創造研究科紀要(愛知淑徳大学)
 愛知淑徳大学論集 文学部・文学研究科篇(愛知淑徳大学)
 愛知大学国文学(愛知大学国文学会)
 愛知大学短期大学部研究論集(愛知大学短期大学部)
 青山学院女子短期大学紀要(青山学院女子短期大学)
 青山学院大学教育人間科学部紀要(青山学院大学)
 青山学院大学文学部紀要(青山学院大学文学部)
 青山語文(青山学院大学日本文学会)
 アジア・アフリカ言語文化研究(東京外国語大学)
 アジア遊学(勉誠社)
 跡見学園女子大学文学部紀要(跡見学園女子大学)
 阿部知二研究—城からの手紙(阿部知二研究会)
 有島武郎研究(有島武郎研究会事務局)

【い】

飯田短期大学紀要(飯田短期大学)
 和泉短期大学研究紀要(和泉短期大学)
 井上靖研究(井上靖研究会)
 印度學佛教學研究(日本印度學仏教學会)

【う】

浮雲(林美美子の会)
 潮(潮出版社)

【え】

SFマガジン(早川書房)
 江戸風雅(江戸風雅の会)
 愛媛国文と教育(愛媛大学教育学部国語国文学会)
 絵本学(絵本学会)
 絵本bookend(絵本学会)
 遠藤周作研究(遠藤周作研究会事務局)

【お】

鷗外(森鷗外記念会)
 追手門学院大学人文学紀要(追手門学院大学文学部)
 大阪大谷国文(大阪大谷大学日本語日本文学会)

大阪国際児童文学振興財団研究紀要(大阪国際児童文学振興財団)
 大阪産業大学論集 人文・社会科学編(大阪産業大学)
 大阪夕陽丘学園短期大学紀要(大阪夕陽丘学園短期大学)
 大妻国文(大妻女子大学国文学会)
 大妻比較文化(大妻女子大学)
 岡大國文論稿(岡山大学言語国語国文学会)
 岡山大学文学部紀要(岡山大学文学部)
 沖縄国際大学日本語日本文学研究(沖縄国際大学日本語日本文学会)
 鬼ヶ島通信(鬼ヶ島通信社)
 尾道市立大学日本文学論叢(尾道市立大学日本文学会)
 尾道文学談話会会報(尾道大学芸術文化学部日本文学)

【か】

解釈(解釈学会)
 香川大学国文研究(香川大学国文学会)
 学苑(昭和女子大学近代文化研究所)
 学芸国語国文学(東京学芸大学国語国文学会)
 学士会会報(学士会)
 学習院大学国語国文学會誌(学習院大学国語国文学會)
 学習院大学史料館紀要(学習院大学)
 学習院大学大学院日本語日本文学(学習院大学大学院人文科学研究科日本語日本文学専攻)
 学習院大学文学部研究年報(学習院大学文学部)
 學鏡(丸善雄松堂出版)
 花袋研究学会々誌(花袋研究学会)
 歌壇(本阿弥書店)
 金沢学院大学文学部紀要(金沢学院大学)
 金沢大学国語国文(金沢大学国語国文学会)
 金沢文化振興財団研究紀要(金沢文化振興財団)
 川端文学への視界(靱知の海出版)

【き】

季刊子どもと本(子ども文庫の会)
 季刊文科(鳥影社)
 聴く語る創る(日本民話の会)
 北九州市立大学文学部紀要(北九州市立大学文学部)
 北九州市立文学館紀要(北九州市立文学館)
 北の文庫(北の文庫の会)
 北村透谷研究(北村透谷研究会事務局)
 キネマ旬報(キネマ旬報社)
 岐阜聖徳学園大学国語国文学(岐阜聖徳学園大学国語国文学会)
 九州女子大学紀要(九州女子大学・九州女子短期大学)
 九大日文(九州大学日本語学会「九大日文」編集委員会)
 教育(旬報社)
 教育学研究紀要(中国四国教育学会)
 教育研究—青山学院大学教育学会紀要(青山学院大学)
 鏡花研究(石川近代文学館)
 紀要風(群馬県立土屋文明記念文学館)
 京都教育大学国文学会誌(京都教育大学国文学会)
 京都語文(仏教大学国語国文学会)
 郷土作家研究(青森県郷土作家研究会)
 キリスト教文学研究(日本キリスト教文学会事務局)

監修者略歴

梅澤 亜由美 (うめざわ・あゆみ)

法政大学大学院博士課程修了。大正大学教授。
著書に『増補改訂 私小説の技法 「私」 語りの百年史』(2017年12月 勉誠出版)。共編著書に『「私」から考える文学史 私小説という視座』(2018年10月 勉誠出版)などがある。

岩谷 泰之 (いわや・やすゆき)

大正大学大学院博士課程修了。大正大学助教。
森鷗外を中心とした近現代文学、特に文学作品と宗教の関係を研究対象とする。『仏教由来の日常語事典』(2025年2月、丸善出版)に項目執筆として参加。

日本文学研究文献要覧 現代日本文学 2020～2024

2025年7月25日 第1刷発行

監 修／梅澤亜由美・岩谷泰之

発 行 者／山下浩

編集・発行／日外アソシエーツ株式会社

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 鈴中ビル大森アネックス

電話 (03)3763-5241 (代表) FAX(03)3764-0845

URL <https://www.nichigai.co.jp/>

電算漢字処理／日外アソシエーツ株式会社

印刷・製本／株式会社 デジタル パブリッシング サービス

© Nichigai Associates, Inc. 2025

不許複製・禁無断転載

<落丁・乱丁本はお取り替えます>

ISBN978-4-8169-3060-7 Printed in Japan, 2025

本書はデジタルデータを有償販売しております。
詳細はお問い合わせください。